

## 令和5年度 第59回卒業証書授与式 校長式辞

冬の寒さが和らぎ、暖かな陽気に包まれ始めた今日の佳き日に、本校PTA会長様、農友会会長様並びに学校評議員、PTA役員の皆様を御来賓にお迎えし、第59回卒業証書授与式を挙行できますことに衷心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、本日、高等学校の教育課程を修了した証となる卒業証書を授与いたしました。卒業おめでとうございます。3年間の高校生活は楽しいことばかりではなく、苦しいこともあったはずです。今日までよく頑張りました。その思い出は貴重な宝物として生涯大切にしてください。

保護者の皆さま、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様の在籍中は、本校教育活動への御理解と御協力をいただき厚く感謝申し上げます。本日は、お子様を育てられた18年間の御苦勞が報われる日であると拝察いたします。名実ともに社会的な責任を背負う成人となり、独り立ちすることに不安があるかもしれませんが、お子様の可能性を信じ、これからも見守っていただきたく存じます。

さて、本日卒業される皆さんが入学した2021年4月は、東京オリンピック・パラリンピックが間近に迫る中ではありましたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う「まん延防止等重点措置」等に基づく行動制限で閉塞感が漂っていました。

入学直後から様々な行事が中止・縮小される高校生活は窮屈で味気なかったかもしれませんが、今年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行により、学校行事がコロナ禍前と同じ規模に復活しました。中学生の頃、夢に見ていた高校生活をわずかな時間だけでも送ることができたのであれば嬉しく思います。

ところで、世界の人口は今後ますます増加すると予想されている一方、日本では少子高齢化が予想をはるかに超えるスピードで進行し、あらゆる産業分野での人材確保に危機感を募らせています。

また、近年では激甚化する自然災害の他、海外では終わりの見えない戦争を続けている地域があり、産業だけではなく、多くの人々の日常生活が影響を受けています。

しかし、人類はAIやIoTなどの先端テクノロジーを活用した情報革命の推進や世界共通のテーマであるSDGs達成への取組を加速させることで、様々な問題の解決に立ち向かい、明るい未来を実現させようとしています。

そして農業分野においても、スマート農業の導入等、農業DX化による農作業の省力化や品質の安定化をめざすことで農業新時代を創り上げようとしています。

卒業生の皆さんは、農業や農業関連産業の発展に対応すべく、「自他敬愛」「知徳耕道」「見聞知行」の校訓の下、栽培、飼育、ヒューマンサービス、加工、農業土木の各分野で活躍する人材に必要とされる知識や技術の習得に励みました。

また、自営者育成協議会の御支援によるデュアルシステム研修やインターンシップで、地元産業現場の想いを肌で感じる機会にも恵まれました。

ぜひとも、就職先や進学先に関係なく、これからの食料生産や環境保全等の諸問題に関心を持ち、農業の実践者として、あるいは、農業のよき理解者として日本の農業を支える人となるよう期待しています。

中国の思想家孔子は「學べば則ち固ならず。」という言葉を残しました。「学びは一生である。人は何歳になっても、さまざまな人の意見に耳を傾け、新しい情報を積極的に取り入れながら、経験を積み上げなければならない。頑固になった瞬間に枯れ木への道を歩むしかない。」と「論語」の中で説いています。

卒業証書を手にした今こそ、変化の激しい社会で生き抜く「力と技」を磨き上げるために、自ら学び続けることが当たり前となった時代の真っ只中にいることを自覚してください。

未知の世界に飛び込むことには不安があると思います。しかし、創立百八年の歴史と伝統のある本校において仲間とともに切磋琢磨した経験が、困難を乗り越える時に役立つ知恵や精神力として、皆さんの身体に確実に蓄えられています。自信をもって、それぞれの人生のフィールドで、自分の持てる力を十二分に発揮しながら活躍してください。

うららかな春の訪れが慣れ親しんだ学び舎からの旅立ちの時を告げています。これまで育ててくださった保護者や身近な方々へ感謝の気持ちを伝えてください。

結びに、新たな生活と新たな人との出会いが待つ卒業生の一人一人が、幸多き人生を歩まれることを祈念し、式辞といたします。

令和6年3月1日

宮崎県立都城農業高等学校

校長 山下 勉